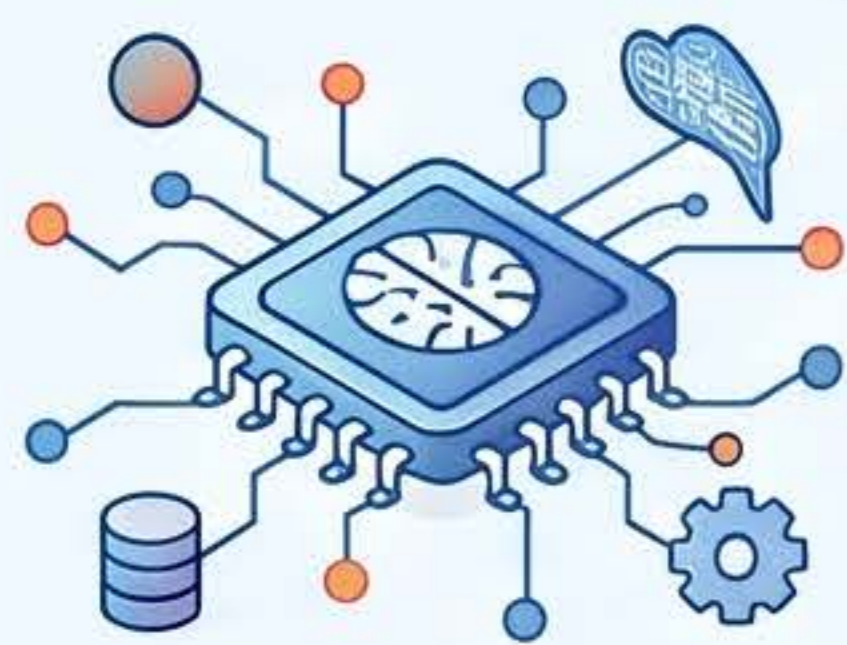


# 日本のAIロボティクス戦略：2040年1,000万台への道

2040年までに国内で1,000万台のロボット導入を目指す。その本質は台数確保だけでなく、日本の高品質な「現場データ」を保護しながら活用し、国産の「フィジカルAI」基盤を確立することにある。

## 戦略目標と実装ロードマップ



**国産マルチモーダル基盤モデルの開発(2026-2030)**  
NEDOの下、Noetraと産総研が  
実世界ネイティブなAI基盤を開発。

## 新たに重視される重点分野と、その政策的意味

| 区分                | 対象分野                   | 政策的意味                 |
|-------------------|------------------------|-----------------------|
| 新規追加<br>飲食・食品製造   | タスク変動が大きく、人と近接する現場への拡大 | 餽養や介護等の安全制約を確立することを優先 |
| 正式格上げ<br>医療       | 衛生・安全・説明責任が重い高付加価値領域   | 権利に競争力や価値機能を技明することも必要 |
| 既存・候補<br>物流・製造・保安 | 構造化された現場からデータ主導の自動化を加速 |                       |



**年度ごとの「ステージゲート」による厳格な管理**  
2027年度以降は毎年度の審査で予算継続を判断する日本型ガバナンスを採用。

## 技術競争力とデータガバナンス



**「フィジカルAI」による物理空間の認識と制御**  
視覚・言語に加え、力学やセンサー情報を統合し、実時間での行動を実現。



**日本の勝ち筋は「現場データ」の循環**  
保安や介護等の安全制約が強い現場データを国内で保全し、学習に還元。



**権利レイヤ設計による知財保護**  
生データ、基盤モデル、派生モデルごとに権利帰属を明確化する契約を推奨。